

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070100902
法人名	医療法人 生方会
事業所名	グループホーム 陽だまり
所在地	群馬県前橋市表町2-27-20
自己評価作成日	令和 1年 6月 24日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	ubukataikai.webmedipr.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和 1年 7月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ敷地内に病院と老健が隣接するため、認知症に併存症をもった利用者も受け入れ易く、病状に変化がある際も受診・往診いずれで速やかに対応可能である。また、施設での看取りも対応可能。
毎週外部より傾聴ボランティアに來所していただき読み聞かせや歌唱の時間を設けている。納涼祭、豆まき、ひな祭りなど季節ごとの催しを行いご家族ご家族や地域の方にも参加していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物自体は年月が経っているが生活空間であるフロアは臭いもなく、独歩の人、車いすの人が危険にさらされないよう整理整頓され、屋内外には花を植えたり、グリーンを飾る等、職員の工夫と努力がうかがえる。また、利用者のプライベート空間である居室はその人らしく個性的で、自宅での生活ぶりがわかるほど充実している。日常的な外出として、財布を持って買い物に出かける利用者につき添う支援をしている。、外部の人と接し、店の人に顔を覚えてもらうこと、自分でお金を払うといった社会に関わる機会を提供している。これは地域密着型の理念にかなった支援といえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆずり合い 信じ合い 助け合う」理念を施設内に掲示し、朝礼の際に復唱している。	新入職員、異動者には新人研修や職員が付いてまず理念を理解するよう説明し、事業所の歴史から業務内容、ケアの仕方を指導している。	地域密着型の介護施設として、やはり理念の中に地域との関係性を示す言葉を加えてほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2ヶ月に1度の運営推進会議に地域の方々も参加して頂いている。季節ごとの催しにも参加していただいている。	法人の納涼祭に地域の人々が参加している。近隣のコンビニや複合商業施設に買い物や散歩に出かけ店の人と顔見知りになっている。保育園児の訪問や毎週傾聴ボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭は地元へ広報し、地元の人々、家族、利用者、職員が参加し交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期開催し事業所からの報告及び情報交換を行っている。ご家族からのご意見・ご希望や行政からの指示、提案も受けている。	家族に開催の案内をする他、地域の人にも出席を呼びかけ、2ヶ月ごとに開催している。事業報告や現状報告を通して出席者による意見交換、情報交換が行われ、事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、そこで情報交換を行っている。	管理者が行政への報告、相談を通して日常的に連携をとっている。家族の希望で介護保険の認定調査の立会いや申請代行等を行い協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に身体拘束廃止に向けたケアに取り組んでいる。法人内各施設間でも情報を共有し学習するため定期的に会合をもっている。	玄関は開錠しているが、不穏な利用者には付き添って一緒に散歩に行っている。抑制帯使用の場合は1ヵ月毎に同意書を取り、モニタリングをしている。職員間でスピーチロックに対する認識がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で全体研修会を行い学習している。日頃のケアの中でお互いに虐待防止について話し合い虐待が見過ごされることがないように注意を払い、疑われるケースがある場合は速やかに上長や委員会に報告するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生方医院病歴管理室長と老人保健施設一羊館事務長による講習会を企画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、同意を行っている。また内容に変更がある際には個別に管理者が詳しく説明し理解いただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員自身が家族の方の立場となり何でも言ってもらえる雰囲気づくりや声掛け・接し方に配慮している。ご意見があった場合には記録に残し会議等で情報共有と検討を行い入所者とその家族に対応する。	利用者や家族は思っていることを言わずらい立場にあることを理解し、何でも言える雰囲気作りを心掛けている。マンツーマンになる入浴時や夜間の利用者の言葉を記録に残し、共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議と毎朝の打合せ会で意見を聞く。新たな提案などは管理者から開設者へ報告し対策を講じる。	勤務時間や休日等の希望は管理者が聞き、勤務体制に反映させている。事業所は職員が希望する外部、法人内研修への参加や資格取得、適性に合った異動にも理解を持って対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回評価票による評価制度を導入している。評価の賞与への反映と支給時に評価通達を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会と外部研修会に参加。また今年度は連携法人より講師を招いて研修会を予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年より連携法人の事務長やグループホーム管理経験者を定期的に巡視してもらいサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用契約前にホームを見学して頂き本人や家族と困っている事や不安な事を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用契約前にホームを見学して頂き本人や家族から困っている事や不安な事を伺っている。利用に至るまでの相談の過程で丁寧に意向を確認していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員同士で意見交換したり本人・家族に要望を伺っている。必要な支援を把握し、当施設の機能で不十分なものは他法人のサービスも含め検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに協働しながら和やかに生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を尊重し、それぞれのペースで面会、外出、外泊の機会をも設けている。職員と家族で共に本人を支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されてからも馴染みの人との関係を重視し面会に来て頂いたり行きつけの理髪店に出かけるなど工夫している。	家にいる時と同じ生活をしてほしいということを伝え、これまで使っていた物を持ち込むことを説明している。家族や友人の訪問や家族との外出、年始の外泊等、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居心地の良い居場所や席順の工夫をしたり、良好な入所者間関係が保てるよう職員が間に入り声かけをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も行事のご案内をしている。また入院などで退所された場合は退院後再入所がスムーズにいくよう連絡をとりあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時声掛けを行ったり家族に意向を伺い支援している。	面会時に状態の説明や報告をすることで、家族から思いを聞くようにし、職員間で共有している。利用者からは支援の際、会話や様子から思いや意向を推察、把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後にかかわらず情報を収集し、職員が情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に状態を観察し詳細を個別記録に残すと共に状態の変化に素早く気付くよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケースカンファレンスを実施し、状況を確認している。面会時に家族に状況報告と共に意向を伺っている。	介護計画は3ヶ月ごとに見直しをしている。また、毎月、職員全員でモニタリングをし、カンファレンスで利用者の状態を確認し、必要があればその都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や個別記録を記載している。それをもとに情報交換し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する病院や老健を中心に柔軟なサービス提供、支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の前橋駅構内の施設やコンビニの利用や週1回の傾聴ボランティアさんとの交流などを行っている。また、地元自治会、老人会にも行事の案内をし参加いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科・精神科医の受診も受けられる。生方医院受診、往診をはじめかかりつけ医の診療を継続している。	かかりつけ医か協力医か選択できることを説明しているが、現在は事業所の母体である病院の協力医の往診を受けている。定期的な通院は家族や職員が付添っている。歯科医の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診の他に週1回看護連携として併設病院外来の看護師が訪問している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生方医院の他、病状に応じて各病院の各科と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に「重度化対応指針」について説明。 職員や医師から家族にその都度状態報告を行い、また意向を伺っている。希望によっては看取り対応も行っている。	最期までケアを望む利用者もいて、看取りを実施する方針にある。その為勉強会も開いている。入院の必要性がある場合は、家族に説明をし、利用者や家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人の全体研修で定期的に研修している。また病状か不安定な利用者に関しては個別に具体策を検討し職員同士情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人の防災訓練の他、消防署指導のもと昼夜を想定した年2回の防災訓練も行っている。	年2回消防署立会いの防災訓練と防災委員による自主避難誘導訓練を毎月行っている。運営推進会議で緊急時の近隣住民への協力要請について話し合っている。食料や排泄用品の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大事にした声かけやケア対応を心掛けている。人生の先輩であり、各人の歴史があることを尊重し敬意をもって接するようにしている。子ども扱いととられるような言葉かけには注意している。	利用者の尊厳を意識したケアに取り組んでいる。声かけの際は苗字にさん付けをするよう心掛け、利用者同士が打ち解け易い雰囲気作りや生活の中で選択の場面を作る取り組みをしている。	居室にある排泄用品やグローブ等 は、ケアにあたる職員本位ではなく、 利用者のプライバシーを損ねないよう 見えない工夫をしてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを尊重しそれらを促す。声かけや取り組みを行っている。意思表示が困難な方には家族とともに職員が意志をくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間とおおまかな日課、受診予定、行事は予定されているが利用者のその日の体調、希望にあわせ調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度訪問理美容サービスの支援をうけている。日中は好みの洋服で夜間はパジャマで過ごして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	病院厨房で調理した食事を保温ワゴンで運んで提供している。メニューは選択できないが毎回飽きないよう工夫をしている。手作りおやつは利用者と一緒に考えたり作ったりしている。	食事は栄養士が考えている。毎月病院の給食会議に出席し利用者の意見を伝え、嗜好調査の結果を献立に反映させている。飲み物は選択できる工夫をし、外食や出前で食事を楽しむこともある。	法人の献立は掲示してあるが、これから食べる食事の内容がわかる情報を提供し、職員は利用者と一緒に会話をしながら食事を楽しむような取り組みをしてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の管理栄養士の指導で、栄養管理を行っている。水分量を記録し脱水・心不全増悪予防に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず声掛けし口腔ケアの支援を行っている。 歯磨き・義歯の手入れ・口腔内清拭・うがい等で個別に対応している。 誤嚥が疑われる方は早めに医師に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時声掛け誘導したり一人ひとりの排泄パターンを把握しタイミング良く排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者の排泄のサイン(きよろきよろ、そわそわ)を見逃さず、声かけをしている。夜間のみおむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。1日1回は必ず陰洗をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便についてチェック表を作成し排便コントロールに努めている。便秘や下痢が続く場合は医師や看護師に報告し指示をうけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態によりミストシャワーを活用している。 週2回は必ず入浴日を定め、外出や受診等と重ならないようにしている。	週2回ある入浴の日を、予定者のみに伝えていいる。家庭と同じような個浴で、床暖房やミストシャワーを備えている。、一緒に入浴の準備をしたり、拒否者には声かけを工夫して対応している。	入浴が連日になることがあっても、利用者にはいつでも入浴ができるといった情報を提供し、利用者が選択できる機会を作してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握する。1日の生活リズムを観察し夜間不眠時は休憩の時間を設けたり離床のタイミングを調整したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすり情報をもとに何のクスリをいつ、どれだけ服用しているか把握している。変更があった際にも必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いを楽しみにしている方が多く洗濯物畳みやエプロン干しなどを職員と共に行っている。 各人の得意なことを見出すように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出・散歩・買い物の支援を行っている。	個別で地域のコンビニへ買い物に出かけ、店の人と顔見知りになる等、日常的な外出を支援している。また、洗濯物を干したり、外気に触れる機会を作る工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を一旦お小遣いとして預かりホーム側で管理コンビニ等で買い物に行く際に持っただき支払い時にはなるべく自分で支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時に電話をかけたり、手紙を出したり一緒にポストに投函しに行ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにテーブル・ソファ等何ヶ所か設置し好みの場所を選んでいただいている。また、花、カレンダー、テレビ、本、雑誌などを置きなるべく過程に近い環境を心かけている。	フロアにはソファやテーブルが配置され、自由に自分の時間を過ごすことができる。また、窓越しに天候や季節の変化、人や車の行き交う様子がうかがえ、地域との繋がりも感じられる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるテーブルがある。また、入居者同士のトラブル回避の為、状況を見て席を変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた寝具類や家具等を持参して頂いている。また、入居後もその都度本人が使用していた物を持参して頂いている。 繁雑になったり危険になったりすることは避けられている。	利用者の好みでベッド、畳の居室がある。テレビ、冷蔵庫、家具等在宅時の物が持ち込まれ、雑誌や日本人形、化粧品、衣類が整理されている。利用者が過ごしやすい空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の清潔や衛生を保持し薬剤など注意の必要な物はバックヤードに保管している。フロアも安全に歩行・移動出来るように注意している。		